



(長寿を祝う会：米寿記念品贈呈の様子)

新年のごあいさつ

社会福祉法人 足羽福祉会
理事長 高村昌裕

新年あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災という大惨事が日本の将来、
しいては私たち一人ひとりの生活そのものに対して
未来への不安や願い、絆や支え合いの大切さといつ
たあらゆる機運をもたらしました。まさに「私たち
はどう生きるべきか」という根本的な問いが投げかけ
られた、そんな一年でした。

さて昨秋、私の知人の辻英之さんが執筆された
「奇跡のむらの物語」の中で、彼が携わった過疎化
が進む長野県泰阜(やすおか)村の「山村留学」を通
して、得られた尊いものをお紹介します。

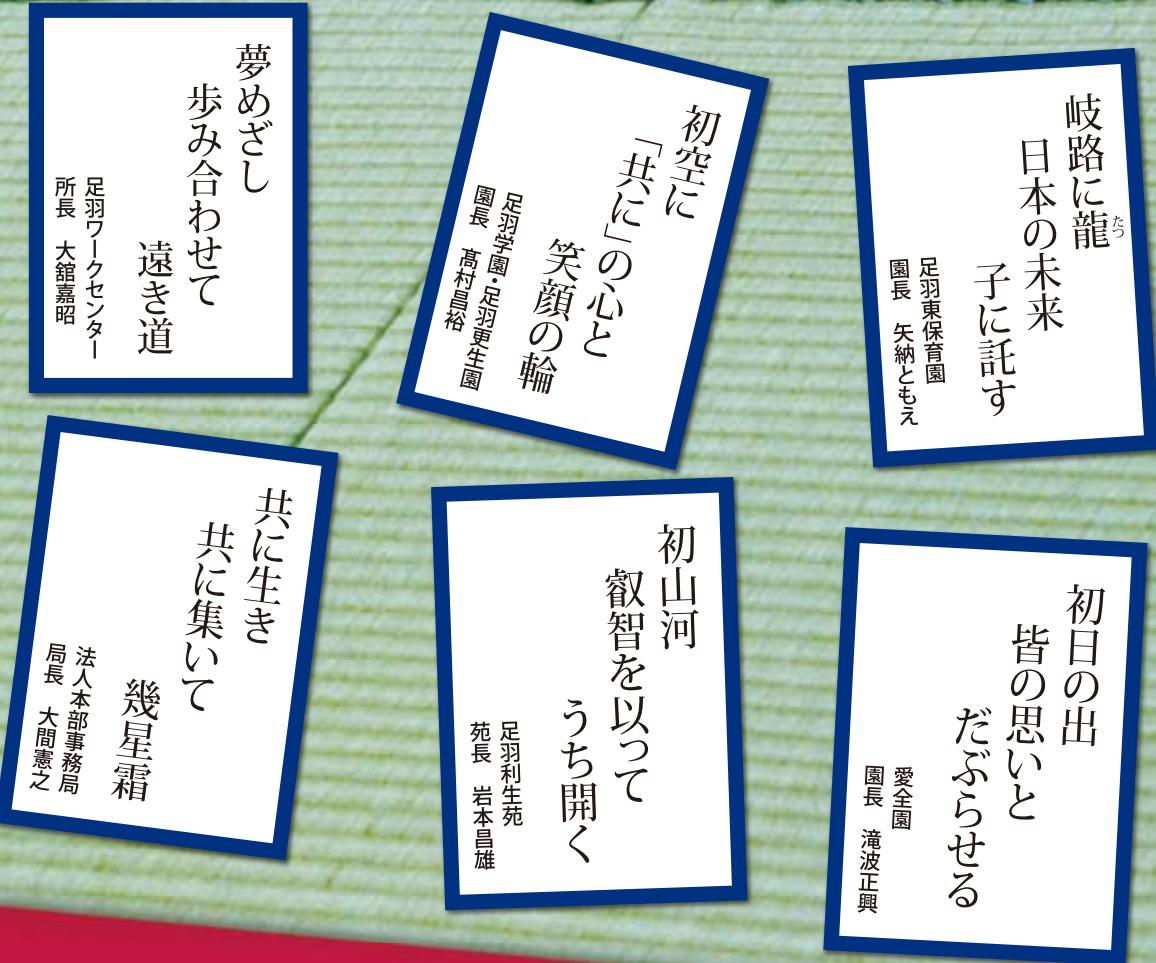
最初はよそ者であった彼やその仲間たち、そして
都会から来た子どもたちは、村の豊かな自然や古来
より受け継がれてきた「生きる業」に感動しながら、
徹底的に話し合って、さまざまな問題を解決しなが
ら、たくましく生活を送っていく。その姿を見て、
地元の村人たちは、長い間「こんな村、嫌だ」と否
定的なとらえ方から、わが村のすばらしさに気づき
「この村で自立していきたい」との想いで活動していく
ようになるのです。その25年の足跡が、子どもた
ちや村人たちのすてきな写真とともに丁寧に記され
ていました。

この本を読んで、私が最も強く感じたことは、わ
れわれの社会福祉事業においてもサービスを受ける
利用者の方々と提供する私たちの二者関係だけ
でとらえるのではなく、地域社会をしっかりと意識
してかかわっていく必要があるということです。

元来より足羽福祉会は、地域の行事や奉仕活動
に赴いたり、また施設の催しには地元住民の皆様や
ボランティアの方々にお越しいただいたりしながら、
お互いを尊重しつつ密接なつながりを大切にして
きました。ある施設では災害発生時の緊急避難所
として、一人暮らしのお年寄りを受け入れてほしい
というニーズについて、地元住民の方との話し合い
がなされました。ふだんから交流を深めていく中
で、施設に対する抵抗感を取り除いておく必要があ
ることに気づかされました。

地域社会とのつながりを通して、利用者の方やご
家族、働く職員、そして地元住民の皆様が「この地
域に足羽福祉会があってよかった」と思っていただ
けるよう、今年も一歩ずつ着実に、前を向いて進
んでまいります。

どうか温かいご支援、ご協力を願いいたします。



目次 もくじ

2	新年のごあいさつ	
4	保護者の方のおかげです	足羽東保育園
6	刺激が心地よい空間に	足羽学園
8	いきいき	足羽更生園
10	アスリートとしての挑戦 ～駆け抜けた世界の大舞台～	足羽ワークセンター
12	『ユニット化』思いも新たに ～今、私たちにできること～	愛全園
14	思いから引き出された力 ～Aさんとのかかわりを通して～	足羽利生苑
16	足羽福祉会 春夏秋冬 年間行事アルバム	
18	愛のささえ	

「表紙について」

子どもたちのいきいきした表情をみると「ちから」が湧いてきます！

愛道を手に取った皆様にも「ちから」のおすそ分けです☆

足羽東保育園 大島直子

